

Winter show “Light Source”

城戸 保 / ライナー・スパングル / 横井 七菜

Tamotsu Kido / Rainer Spangl / Nana Yokoi

2022年12月17日(土) - 2023年1月21日(土) 水~土 12:00-19:00

(2022年12月25日 - 2023年1月3日 冬期休廊)

HAGIWARA PROJECTS

〒135-0006 東京都江東区常盤 1-13-6-1F

T/F: 03 6300 5881 E: info@hagiwaraprojects.com

www.hagiwaraprojects.com

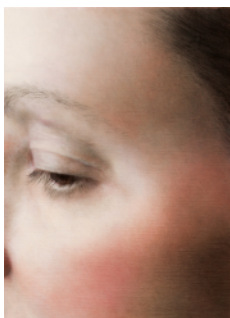
この度 HAGIWARA PROJECTS は、12月17日より Winter show “Light Source” を開催します。

本展では、城戸保の新作写真、ライナー・スパングルの近作絵画、そして横井七菜の新作ドローイングを展示いたします。

城戸保「赤い鉄」2022,
c-print, 45.7x29.4 cm

城戸 保 Tamotsu Kido

1974年三重県生まれ。愛知県在住。都市郊外の放置された車やペンキが剥げた物置といった人工物と、生い茂る花々や蘇鉄などの自然物が混在する景観に着目し、写真の重要な要素である光がもたらす美しさを独特な構図で捉える。今回は撮影済みのフィルムを感光させるという、偶然の失敗から生じた現象を取り入れた「光にかえす」シリーズから、新作を展示する。近年の展覧会に、「瀬戸現代美術展」瀬戸市(2022, 愛知)、「光呼吸 時をすくう5人」原美術館(2020, 東京)、「織り目在りか」一宮市(2018, 愛知)、「風景画 | 船を釣る」HAGIWARA PROJECTS(2017, 東京)、「アッセンブリッジ・ナゴヤ 2016 現代美術展 | パノラマ庭園-動的生態系にしるす-」名古屋港エリア(2016, 愛知)、「ほんとのうえのツクリゴト」岡崎市旧本多忠次邸(2015, 愛知)など。

Rainer Spangl “Untitled (19)”
2021, oil on canvas, 34 x 25 cm

ライナー・スパングル Rainer Spangl

1977年オーストリア、ウィーン生まれ。ウィーン在住。伝統的な肖像画の多面的な規範に基づき、顔の表情や視線の方向のわずかな差異を絵画で表現する。顔の一部を描くことで、視線の角度や特定の瞬間の表情のニュアンスに関心を寄せている。視線を用いてキャンパスの内と外の両方から見られているものについての関係性を示唆する。また、観葉植物も繰り返し登場する主題であり、植物の形態にそって構図を決め、瞑想的で非現実的な空間を描く。近年の展示に、“Im Nächtlichen bedeckt, das erfundene Licht” Song Song (2020, ウィーン) (solo), “satellite II” Galerie Martin Janda (2020, ウィーン), “The Regard” Devening Projects (2017, シカゴ) (solo), “Northeast Corner at 2” Essex Flowers (2014, ニューヨーク) など。

横井 七菜 Nana Yokoi

1984年愛知県生まれ。東京都在住。鉛筆で描くドローイング作品を主に制作する。少年や少女、また虫や鳥、ろうそく、炎などが丁寧に細やかな線で描かれた画面は、観る人にさまざまな解釈を促す。横井は、日常の些細な出来事や心の動きといった小さく不確かなものの美しさを、物語性と瑞々しさ、そして緊張感を併せ持った画面で表現する。今展では新作のドローイングを展示する。主な展覧会に「Super Open Studio」LUCKY HAPPY STUDIO (2022, 東京)、「Crumble」HAGIWARA PROJECTS (2021, 東京)、「Powder」Wako Works of Art (2012, 東京)、「インシデンタル・アフェアーズ うつろいゆく日常性の美学」サントリー 美術館天保山(2009, 大阪)、「from/to #4」Wako Works of Art (2008, 東京) など。

横井七菜「Dandelion」
2021, acrylic and pencil on paper,
35.2 x 44 cm